

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	財政学(Public Economics)		授業コード	E020051
担当教員名	森田 和子			
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	はじめて財政学を学ぶという前提で講義します。経済学の知識が十分なくとも理解できますが、政府の経済活動に関心をもって受講してください。			
受講心得	出席を重視します。休んだ時はプリントを自習し、提出してください。			
教科書	教科書は使用しません。各回、講義ノートのプリントを配布し、重要事項を書き込んでもらいます。			
参考文献及び指定図書	必要に応じて指示します。また、必要な資料はコピーして授業時に配布します。			
関連科目	経済学入門、その他の経済学科目			

授業の目的	私たちにとって身近な財政を、経済のしくみ、受益と負担、公平、義務などの視点から学び、専門的な知識を深めていきます。
授業の概要	財政とは、財政学の研究の歴史、公共財、租税、公債、財政政策、日本の財政、地方財政についての基礎的な講義。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: 第1回 インタロダクション(1) 身近な財政。財政学の研究範囲。 第2回 インタロダクション(2) 市場経済と政府。なぜ政府の活動が必要になるのか。	予習は特に必要としません。講義ノートを保存し、見直す。
第2週: 第3回 インタロダクション(3) 財政の3つの役割。 第4回 インタロダクション(4) 財政学における政府(国家)のとりえ方。	政府はなぜ必要なのか。
第3週: 第5回 財政学研究の歴史(1) 経済学誕生より前から存在していた官房学。 第6回 財政学研究の歴史(2) イギリス古典派経済学の財政論。A.スミスの夜警国家。	現代の財政学に至るまでの歴史を理解する。
第4週: 第7回 財政学研究の歴史(3) ヨーロッパ大陸の新しい財政学。公共財の研究のはじめ。第8回 財政学研究の歴史(4) まとめ 資料を読む。	同上
第5週: 第9回 公共財の理論(1) 公共財とは。3つの特徴。私的財との比較。 第10回 公共財の理論(2) 混雑現象、便益の拡散、マスグレイブの価値財について。	公共財はどのような特徴をもつか。私的財とのちがいがい。
第6週: 第11回 公共財の理論(3) 公共財の需要曲線。フリーライダー問題について。 第12回 租税論(1) 租税の歴史。税をなぜ納めるのか。租税の分類。	税を払う根拠と使いみちの歴史の変遷をみていく。
第7週: 第13回 租税論(2) 租税の分類(つづき)～税の転嫁とその種類。 第14回 特別講義(予定) 国税局の方による税の現状についての講義を予定。	税の分類、転嫁の種類。特別講義は欠席しないこと。
第8週: 第15回 租税論(3) 日本の所得税。所得の種類、税率体系、税制改正について。 第16回 租税論(4) 課税の経済効果。課税は市場にどのような効果をもたらすか。	超過累進課税について。課税のもたらす経済効果。
第9週:	

第17回 租税論(5) 消費税と支出税の考え方のちがひ。日本の消費税のしくみ。	政府の借入としての公債のあり方。	
第18回 公債論(1) 公債とは。起債から償還まで。公債の分類。		
第10週：		
第19回 公債論(2) 財政法4条と公債発行。公債の消化方法。	公債に関する知識。各自で検索し調べてみるとよい。	
第20回 公債論(3) 租税と公債の比較。公債発行が財政赤字をうむことを容認する理由。		
第11週：		
第21回 フィスカルポリシーの理論 不況・失業問題解決のための財政政策。	ケインズ型財政政策の基礎。予算に関する基礎知識。	
第22回 予算制度(1) 財政民主主義と予算制度。予算原則。		
第12週：		
第23回 予算制度(2) 一般会計と特別会計。予算の種類。	地方政府の必要な理由。	
第24回 地方財政(1) なぜ地方財政が必要なのか。地方政府の収入。		
第13週：		
第25回 地方財政(2) 地方税の体系。主な地方税の分類(県・市町村)。	地方政府の収入としての地方税。地域間に格差がある。	
第26回 地方財政(3) 国と地方の財政関係。財政力の地域間格差。		
第14週：		
第27回 地方財政(4) 国と地方の財政関係(つづき)。財源移転の方法。	国は財政力の弱い自治体にどのようなことをしているか。	
第28回 地方財政(5) 地方政府の財政支出。普通会計と公営事業会計。		
第15週：		
第29回 日本の税制の今後 政府税制改正大綱など資料をもとに今後の税制を考える。	最近の日本の財政の課題。	
第30回 全体のまとめと復習問題 前半は基本問題の演習、後半は解説と論述問題の対策		
第16週：期末試験		
試験時間60分で自筆の講義ノートと講義で配ったプリントを参照しながら基本の小問題15問程度と各自でテーマを決め準備してきた論述1題を解答する。	関心のあるテーマを自分で調べ論述する準備しておく。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	積極的に学ぼうとする姿勢を評価します。出席を特に重視します。
【知識・理解】	財政学の基本用語、取り上げる領域を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	関心をもったテーマについて調べ、小論文にまとめることができる。
【思考・判断・創造】	現代の政府の役割について考える。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	20点		30点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	20点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	基本用語をもちいて内容のある答案を書くことができる。
発表・その他 (無形成果)	出席を重視します。